

# 和泉市学校教育情報化推進計画

令和7年2月  
和泉市教育委員会

第1章 計画策定にあたって 頁

(1) 計画策定の背景および目的 . . . . . 4

(2) ICT活用のこれまでとこれからの取組み . . . . . 5

(3) 今後の教育に求められる姿 . . . . . 6

(4) めざす学校教育の姿 . . . . . 7

(5) 今後の教育に求められる授業 . . . . . 8

第2章 計画の内容 頁

(1) 和泉市の学校の情報化に係る現状 . . . . . 10

(2) 基本的な方針 . . . . . 11

①ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成 . . . . 12

- ・適切な学習アプリの活用
- ・教育ダッシュボードの構築
- ・プログラミングの授業等による情報活用能力の育成



②教職員のICT活用指導力の向上 . . . . . 14

- ・ 専門家を活用した支援の充実
- ・ ICT支援員による学校支援を拡充

③ICTを活用するための環境の整備 . . . . . 15

- ・ 子どもたちの使いやすさを重視した1人1台端末の活用
- ・ コンピュータ教室の今後のあり方について再検討し、さらなる発展へ
- ・ 端末の画面を投影する装置の整備
- ・ 誰一人取り残さない学びの保障

④教職員の働き方改革 . . . . . 18

- ・ 教育データを活用した教育ダッシュボードの構築
- ・ 事務作業のさらなる効率化
- ・ 生成AIを活用した業務の効率化

(3) その他の留意事項 . . . . . 20

第3章 計画の評価 頁

指標 . . . . . 23 2

和泉市学校教育情報化推進計画

## 第1章 計画策定にあたって

# (1) 計画策定の背景および目的

1. 「学校教育の情報化の推進に関する法律」(令和元年公布・施行)第9条において、学校教育情報化推進計画の策定が努力義務化された。
2. 令和7年度から令和11年度を期間とする計画を策定することにより、本市の学校教育における情報化の推進に係る今後の方向性を中心に、具体の取組みイメージを共有する。
3. 学校教育情報化推進計画に基づく新たなICTの取組みを推進することで、現行の学習指導要領において学習の基盤となる資質・能力として位置づけられている「情報活用能力」の育成を図る。
4. その他、ICTの取組みにより教員、保護者の利便性向上にもつなげる。

※ICTの進展により、環境に大きな変化があった場合は、適宜改訂します。

# (2) ICT活用のこれまでとこれからの取り組み

これまで(GIGA第1期)に多く見られた取り組みとこれから(GIGA第2期)でめざす取り組み ~SAMRモデルより~

これまで GIGA第1期

これから GIGA第2期

Substitution  
【代替】

アナログでできていたことをデジタルで代用

教師が

- ・モニターに提示する
- ・デジタルドリルを配付する
- ・教材動画を見せる
- ・課題を配付・回収する

など

Augmentation  
【増強】

デジタルの特性を活かし学習効果を増大

教師が

- ・考えの共有を促す
- ・共同編集をさせる
- ・コメント機能で相互評価させる
- ・推敲などの試行錯誤をさせる

など

Modification  
【変革】

授業デザインが変容し新たな学びの実践

子どもが

- ・学習や発表の手段を自己決定する
- ・学習ログを積み重ね、振り返る
- ・相互評価し、フィードバックする
- ・活用場面を決める

など

Redefinition  
【再定義】

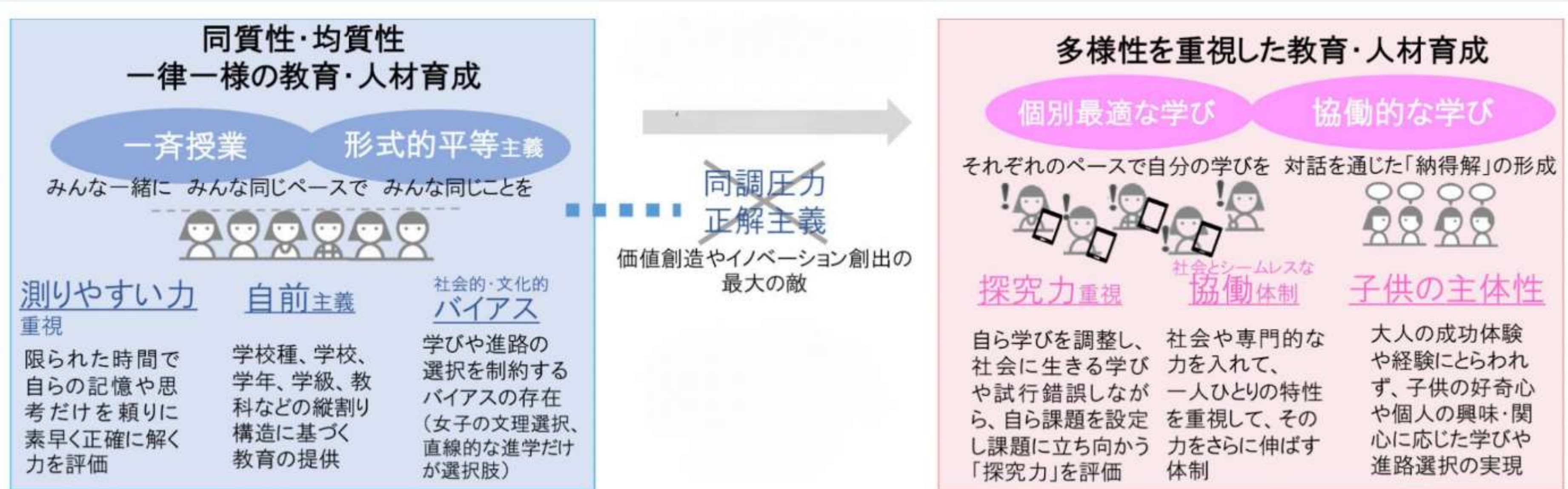
子ども中心の学び・実社会へとつながる学びへ

子どもが

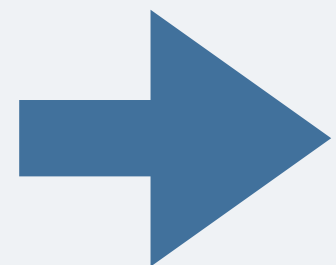
- ・興味関心に基づいた課題を設定する
- ・最新テクノロジーを積極的に活用する
- ・学習成果と実社会の課題をつなげる

など

# (3) 今後の教育に求められる姿

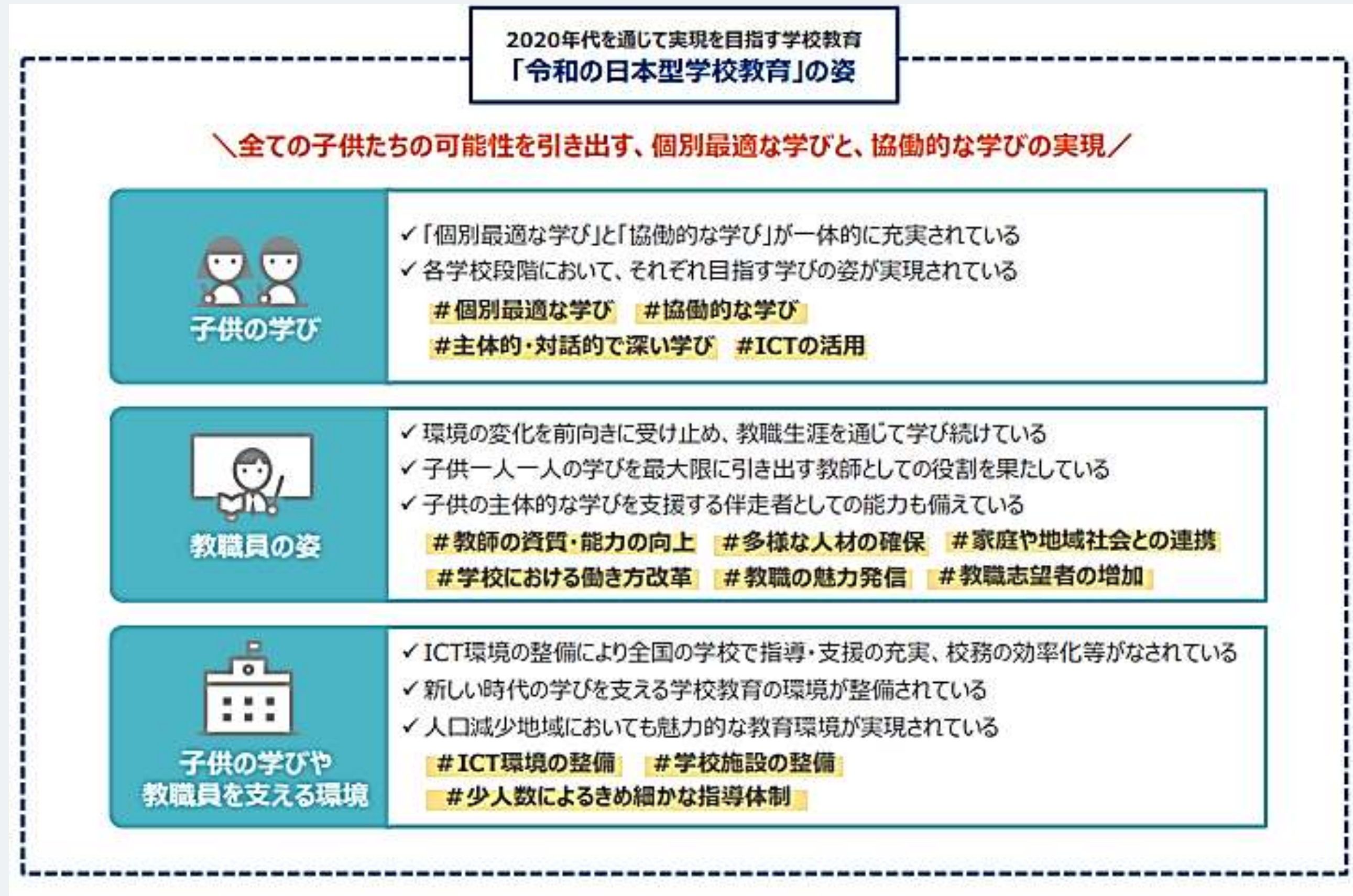


内閣府 Society 5.0の実現にむけた教育・人材育成に関する政策パッケージより引用



実現にはICTを活用した教育の実践が必要不可欠

# (4) めざす学校教育の姿

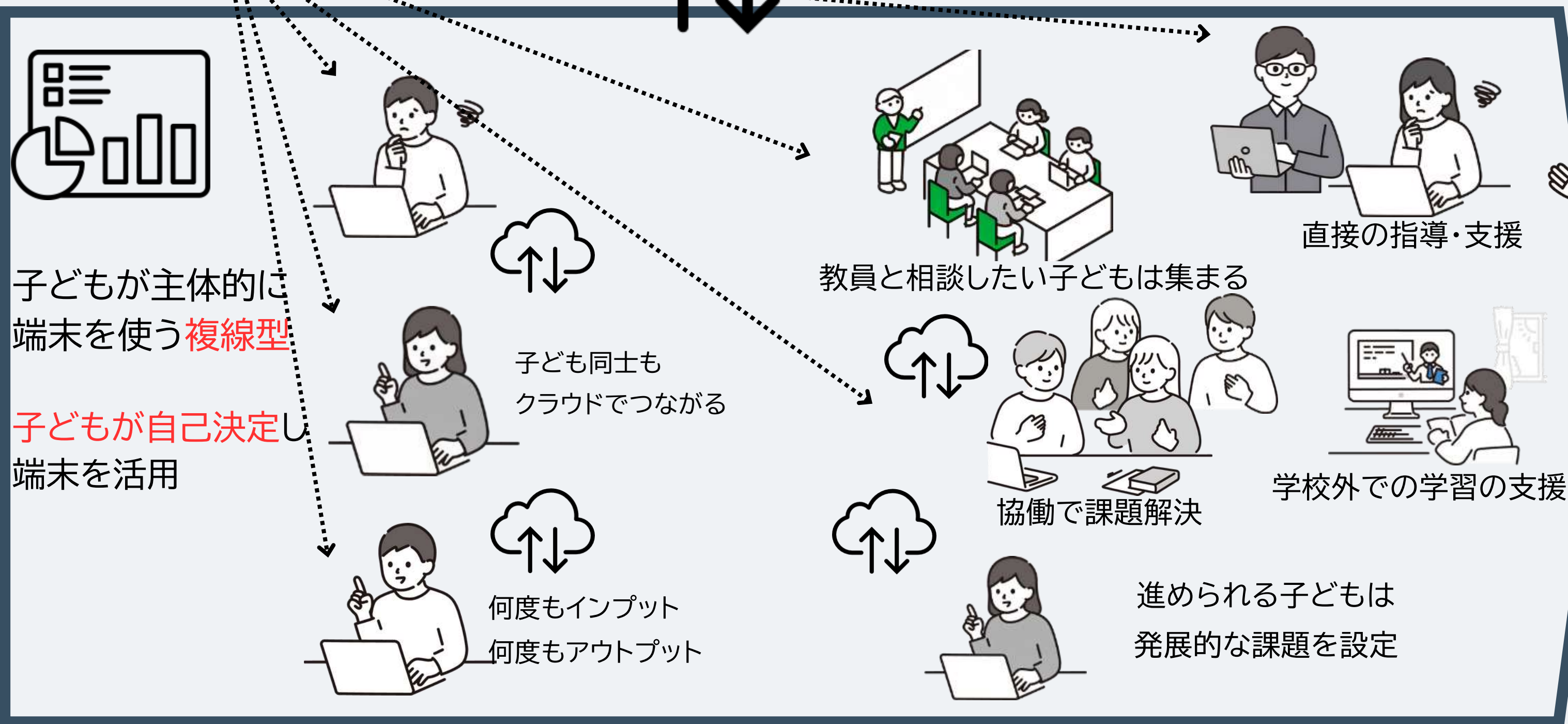


# (5) 今後の教育に求められる授業

教員は子どもの状況を把握し、指導や支援

クラウド上で課題の進捗を把握  
適宜フィードバックや支援を行い  
学びを促進

子ども作成物や教材などをクラウドで共有  
子ども同士や教員がいつでも参照可能



# 和泉市学校教育情報化推進計画

## 第2章 計画の内容

# (1) 和泉市立学校における情報化の現状

## 01 1人1台端末導入による教育改革と学びの進展

- 当初は端末を「使ってみる」ことから始まり、現在は「日常的な活用」に進み、授業支援ソフト等を使用したプレゼンテーションなどを行っています。
- 教員の指示で1つのファイルを同時に編集し、学びを進めています。
- 各学校では、作成した情報活用能力体系表に基づき、ScratchやViscuitを活用してプログラミング等の学習活動を進めています。

## 03 新たなICT学習環境の充実

- 令和2年度に導入した1人1台端末は耐用年数が迫り、起動や動作、充電に課題が出ています。
- 現在のコンピュータ教室の機器は令和6年度末にリース期間が終了し、返却予定であるため、既存のコンピュータ教室は廃止します。  
なお1人1台端末の整備により、コンピュータ教室の新たな活用方法を再検討する必要があります。  
(槇尾学園と(仮称)富秋学園にはコンピュータ教室を設置しません。)
- 市内全学校に設置した50インチモニターは耐用年数が迫るとともに、画面が小さく、教室の端からでは見えにくい子どももいます。

## 02 教員のICT活用に係るスキルの充実

- 1人1台端末の整備が進み、すべての教員にICTを活用して指導する能力が必要となっています。
- 令和5年度に実施した外部有識者による学校支援、GIGAスクール推進事業は一定の効果が見られました。
- 各学校に月3回訪問するICT支援員のニーズは非常に高まっており、今後も重要性が増していきます。

## 04 デジタル化による教育現場の効率化と改革

- デジタル採点システムを導入し、採点業務の大幅な業務改善が進みました。
- 保護者がスマートフォン等で欠席連絡できるデジタルツールの導入により業務効率が改善するとともに保護者の利便性も向上しました。
- 令和5年度の校務用端末更新により、校務系と学習系ネットワークを統合し、校内のどこでも校務用パソコンを操作できるようになりました。
- 校務支援システムやMicrosoft Teamsを活用し、職員会議や研修におけるペーパーレス化を進め、業務効率を向上させました。

# (2) 基本的な方針

## 情報化推進の観点

01

### 1人1台端末導入による教育改革と学びの進展

- 1人1台端末を用いた、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現
- 学習者主体の授業に転換

02

### 教員のICT活用に係るスキルの充実

- 教員が最新のスキルを研究
- ICT支援員を含めた学校支援・教員支援の継続

03

### 新たなICT学習環境の充実

- 1人1台端末やモニターなどの適切な更新
- コンピュータ教室の今後のあり方について検討

04

### デジタル化による教育現場の効率化と改革

- さらなる効率化と負担軽減のため、働き方改革を支援
- 情報の集約と分析を行い、教育データの活用が必要

## 基本的な方針

### (1)ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

- 情報活用能力を育成し、授業デザインを研究します。
- 学習者主体の授業に転換し、ICTを活用した学びを研究します。

### (2)教職員のICT活用指導力の向上

- 教員が学び続ける環境を整えます。
- 今後の教育に求められる授業の姿をとらえ、子どもが自律した学習者になる授業を推進します。

### (3)ICTを活用するための環境の整備

- 子どもたちがより使いやすい端末を整備し、教育DXの促進を図ります。
- 子どもたちが学びの主体となる空間を創造します。

### (4)教職員の働き方改革

- 業務の内容を見直し、デジタルの力も生かしつつ、教職員が効果を実感できる校務効率化を促進し、教職員が子どもと向き合う時間を確保することで、教育の質の向上をめざします。

# ①ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

施策の方向性

## 1 適切な学習用アプリの活用

- 課題配付や画面配信ができる授業支援アプリ、共同編集を促す学習支援アプリ、基礎基本を繰り返し学習できるドリルアプリの活用を進め、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現します。
- ICTを最大限活用し、デジタルの強みを生かした学びを推進し、小学校では学習用デジタルドリルアプリ、中学校ではAIドリルを継続して使用します。
- AIドリルについては、令和7年度より中学校に限定した活用とし、中学校ではAIドリルを活用した授業改善の取組みが実践できるよう、学校支援に取り組みます。  
小学校では、令和7年度よりAIドリルの活用を廃止し、紙ドリルとAIドリルではない学習用デジタルドリルを活用し、アナログとデジタルのベストミックスの取組みを推進します。

## 2 教育ダッシュボードの構築

- 教育データを効果的に活用し、子どもが主体的に学習できる取組みを推進します。
- 子どもが、自らの学びを振り返り、広げ、伝えることが可能になる「自分ダッシュボード」の構築をめざします。



# ①ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

## 施策の方向性

### 3 プログラミングの授業等による情報活用能力の育成

○子どもたちが「楽しい」「役に立つ」と感じられるプログラミングの授業を展開します。

○子どもたちが学び方を習得し、自律した学習者となるために必要な「学びスキル」、子どもたちが文房具の1つとして、1人1台端末を活用する「ICTの基本操作スキル」、情報を安全に活用するために必要な「情報モラル・情報セキュリティ」、論理的思考力 を身に付けるために必要な「プログラミング」の学習を通して、情報活用能力を育成します。



# ②教職員のICT活用指導力の向上

施策の方向性

## 4 専門家を活用した学校支援の充実

○令和7年度より、専門家が各学校をアセスメントし、課題を明確にした上で、実態に応じた助言や改善策を提案する「GIGAスクール構想推進事業」を市内全校で実施します。

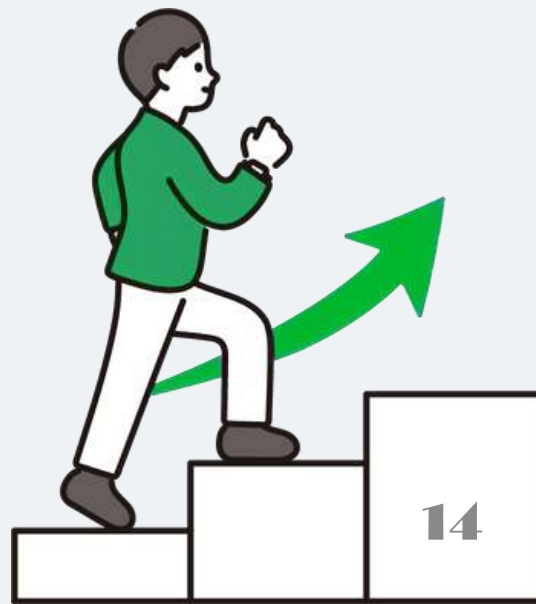


## 5 ICT支援員による学校支援を拡充

○ICT支援員の配置日数をさらに拡充することをめざします。

○教員とICT支援員が一つのチームとなり、学校がめざすこれからの授業の姿を共有します。

○ICT支援員は、授業改善に向け提案を行います。



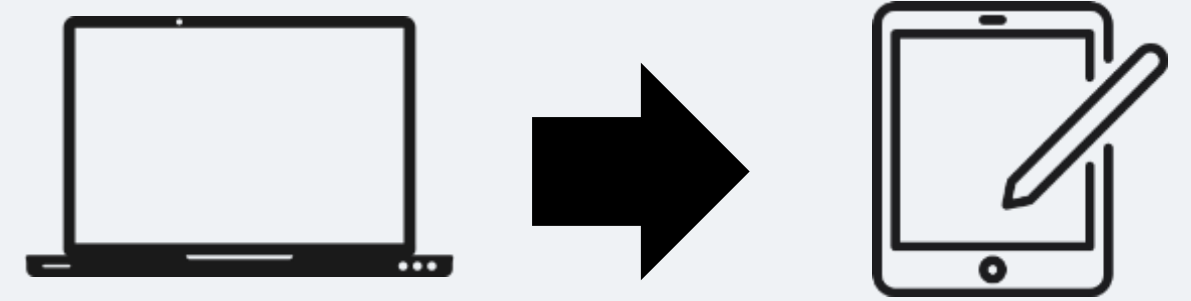
# ③ICTを活用するための環境の整備

施策の方向性

## 6 子どもたちの使いやすさを重視した1人1台端末の活用

○実現したい学びの姿に向け、GIGA第2期ではiPad OSを採用します。

○めざす授業の形に沿った1人1台端末の活用を促進します。



## 7 コンピュータ教室の今後のあり方について再検討し、さらなる発展へ

○コンピュータ教室のアクティブラーニングルームへの再整備をめざし、子どもたちが主体的な学びをさらに進める空間を創造します。

○高性能PC、3Dプリンター、ドローンの配備をめざし、より発展的な学習活動を可能にします。



# ③ICTを活用するための環境の整備

## 8 端末の画面を投影する装置の整備

○電子黒板機能の導入も視野に入れ、画面サイズを大型化します。

○ホワイトボードに投影する天吊りのプロジェクタを設置することをめざします。

槇尾学園のプロジェクタ



小学校の現状



中学校の現状



電子黒板

黒板＋プロジェクタ

ホワイトボード＋プロジェクタ

# ③ICTを活用するための環境の整備

## 施策の方向性

### 9 誰一人取り残さない学びの保障

- オンライン授業などICTを用いて不登校の子どもや教室に入りにくい子ども、病気療養中の子ども等の学習機会を確保します。
- 障がいのある子どもや日本語指導が必要な子どもに対して、ニーズに応じたツールやアプリ等を組み合わせた支援を行います。



# ④教職員の働き方改革

施策の方向性

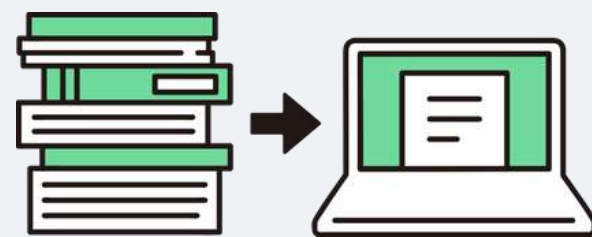
## 10 教育データを活用したダッシュボードの構築

- 学校内に散在するデータを一つにまとめ、可視化できる「先生ダッシュボード」を構築し、効率的な業務推進につなげます。
- 学校が保有する校務系データと市長部局が保有する福祉系データを活用した、効率的かつ効果的な子ども支援のプロセスの構築に取り組みます。



## 11 事務作業のさらなる効率化

- ICTの活用により、学習評価や成績処理、学校行事の準備や運営、進路指導事務、学校通信等の作成、関係機関へのアンケート回答等の事務作業を効率化します。

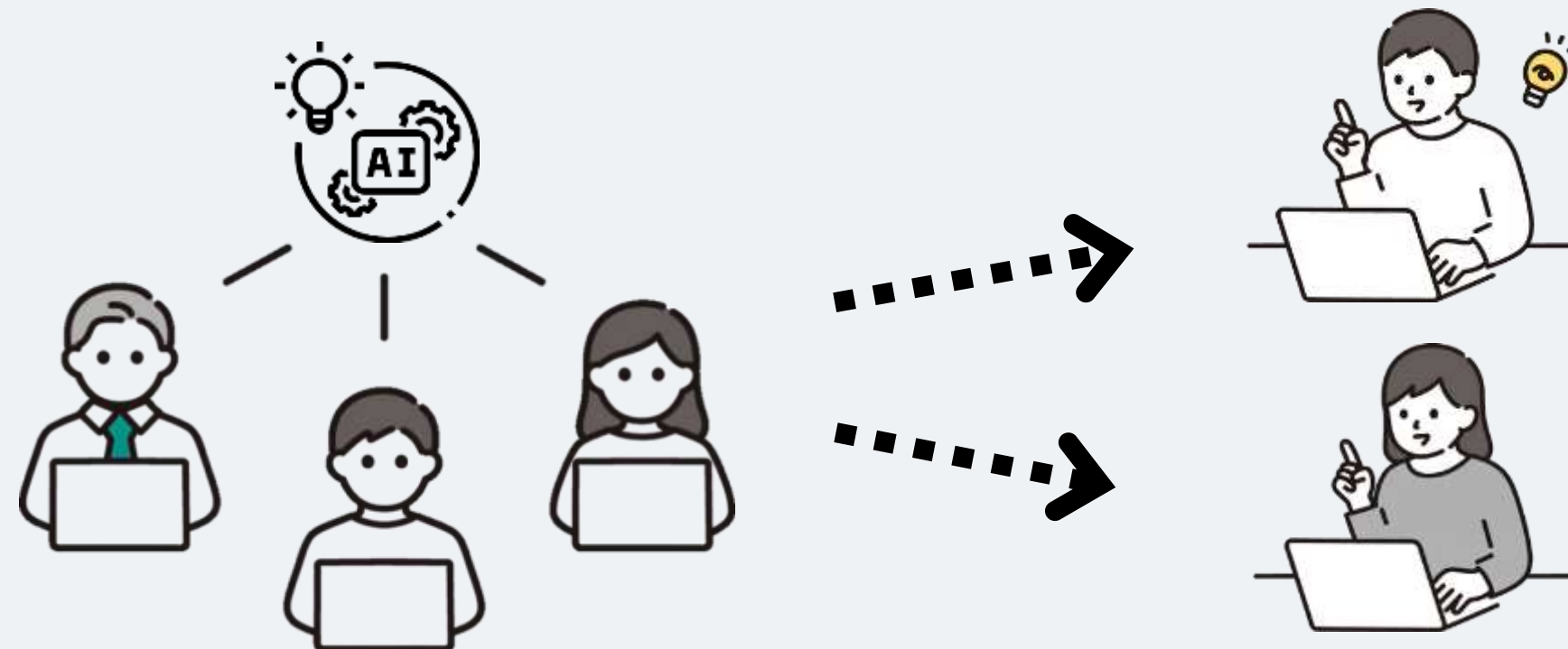


# ④教職員の働き方改革

施策の方向性

## 12 生成AIを活用した業務の効率化

- 文部科学省のガイドラインを踏まえ、教職員が校務で生成AIを利用することで、業務効率の向上をめざします。(ex:小テストや学級通信などのたたき台、日程調整や感想の集約等)
- 子どもの生成AI利用については、使い方によって人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具にもなり得ることを理解したうえで、発達段階や情報活用能力の育成状況に十分留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討します。



# (3) その他の留意事項

## 1: 学校と教育委員会事務局間のデータ連携の強化

---

- 教育委員会事務局の指導主事も学校教員と同じ校務支援システムを活用し、情報の共有化を図ります。
- 教育委員会事務局は学校におけるICTの活用状況の把握に努め、情報の共有、システムの改良の意識を保持します。

## 2: 保護者とのコミュニケーションツールの充実

---

- 保護者からの連絡について、就労環境や相談内容の多様化に鑑み、相談体制にICTを活用することも検討していく必要があります。

## 3: 学校図書館のデジタル化、市立図書館とのデータ連携

---

- 槇尾学園には、将来的な市立図書館との連携を見越したシステムを導入しています。
- 令和9年度に開校を予定している(仮称)富秋学園では、学校図書館の地域開放も計画しており、市立図書館とのデータ連携についても関係部局と協議を進めています。
- 他の学校においても、データベース化、市立図書館との連携等の研究を進めます。

# (3) その他の留意事項

## 4:ICT活用による子どもの健康面への影響に関する配慮等

---

- 子どもの健康面への影響に関する配慮等については、ICT機器の画面の見えにくさの原因やその改善方策、姿勢に関する指導の充実など、学校と家庭が適宜情報共有を図った上で、両者が連携して取り組む必要があります。

## 5:セキュリティ

---

- 児童生徒の個人情報や学習データの取り扱いには、適切なアクセス制限を設けます。
- 情報セキュリティに関する定期的な研修を実施し、教職員の意識の向上を図ります。
- 教育情報セキュリティポリシーについて、学校ごとに自己点検を実施し、運用状況を見直します。

和泉市学校教育情報化推進計画

## 第3章 計画の評価

# 指標

## 項目

(1)ICTを活用した児童生徒の  
資質・能力の育成

## 指標

◇調査名：全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査

項目：「5（1,2年生で）年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を  
活用することで、楽しみながら学習を進めることができる」において、  
「できる」と回答した児童生徒の割合

目標値：小6・中3：60%以上（令和11年度）

現状値：小6：市46.1%、全国46.9% 中3：市39.5%、全国39.1%（令和6年度）

(2)教職員のICT活用指導力の  
向上

◇調査名：全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査

項目：「5（1,2年生で）年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を  
どの程度使用しましたか」において「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合

目標値：小6・中3：40%以上（令和11年度）

現状値：小6：市18.8%、全国25.3% 中3：市34.3%、全国31.0%（令和6年度）

# 指標

## 項目

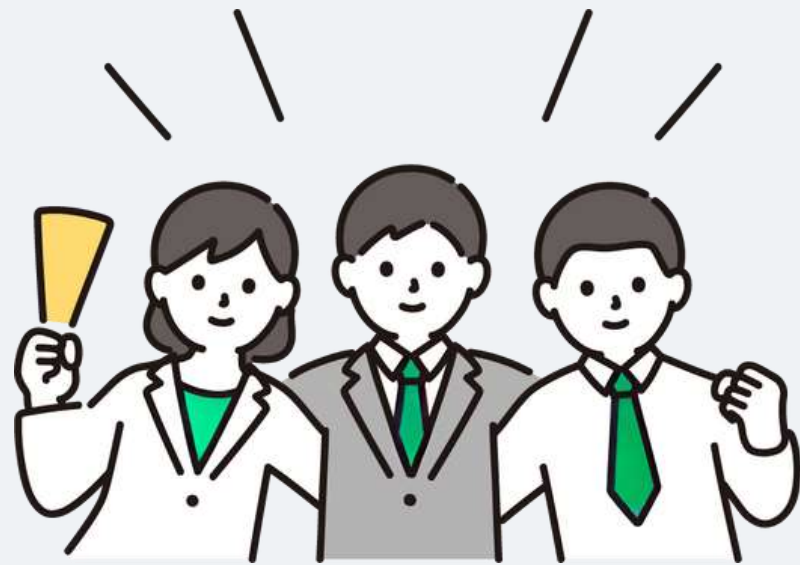
(3)ICTを活用するための  
環境の整備

## 指標

- ◇GIGA第2期の端末更新(令和7年度)
- ◇(仮称)富秋学園におけるアクティブラーニンググループの整備
- ◇ 高性能PC、3Dプリンター、ドローンの配備

(4)教職員の働き方改革

- ◇調査名:「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト(学校設置者向け)」  
項目:全20項目の最も校務DXが達成されている状態を30点とする600点満点  
目標値:400点(令和11年度)  
現状値:市、370点 大阪府平均343.6点(令和6年度)
- ◇調査名:教職員アンケート(市独自)  
項目:「ICT機器を活用することで、業務の効率が上がった」  
目標値:肯定的な回答割合:80%以上(令和11年度)



和泉市学校教育情報化推進計画

-Izumi City School DX Plan-

令和7年2月

和泉市教育委員会事務局  
Izumi City Board of Education